

## ▲▽海の道▲▽ 八幡浜～別府航路②

### れいめい丸に乗船 八幡浜港～別府港

#### ■ 八幡浜を歩く

八幡浜市は、柑橘農業、水産業、水産関連食品製造業、造船業などが主要産業で、特に「みかん」の栽培は、明治の中頃から始まったといわれ、百年の歴史があり、その品質の良さは全国的に有名です。また、水産業は各種漁船漁業、養殖漁業も盛んで、西日本有数の水揚げを誇る水産市場は、大消費地への水産物供給基地として重要な役割を果たしています。北に伊予灘、西に宇和海を望み、丘陵地が多く、海はリアス式海岸が続き、温暖で風光明媚。この歴史ある街を散策しました。

#### ■ 明治の街並

八幡浜市の歴史は産業の歴史でもあり、街を散策すると、どこか懐かしい風景に出会えます。アンティークな香りが漂う擬洋風建築、赤レンガ塀など、目に映るひとつひとつの風景が、八幡浜の歩んできた歴史を物語っているようです。

#### ■ 旧白石和太郎洋館

市指定有形文化財であるこの洋館は、木造瓦葺きの建物に洋風建築を意識したデザインを取り入れた擬洋風建造物で、玄関や窓の上部の屋根に施されたペディメント(三角形の装飾)、上下スライド窓を彩るアーチと柱状の窓枠、黒漆喰の外壁が目を引きまします。内部の天井装飾、ペチカ、キャピタル(柱頭飾り)で、丁寧な左官仕事による細工は、当時の技術の高さを物語っています。往時、鋳業・紡績業などで財をなした白石和太郎が造らせたもので、昭和9年から平成元年までは川之石ドレスメーカー女学院(川之石ドレスメーカー専門学校)として使用され、地域の人々に「ドレメ」として親しまれていました。

#### ■ 東洋紡績赤レンガ倉庫跡「もっきんろーど」

宇和紡績(のち東洋紡績)は、明治20年に愛媛県で最初に設立された紡績会社で、四国で初めて電灯が灯ったことでも知られています。昭和5年に閉鎖し、現在は赤レンガ倉庫だけが残り、川之石地区の黄金時代を象徴する貴重な建物です。川沿いには350mの木製遊歩道「もっきんろーど」が続いています。

#### ■ 平家落人の伝説の里・平家谷

「平家谷」一帯は、平家落人たちの哀しい伝説が残る場所。溪谷と自然林がことさらに美しく、憩いとやすらぎの場として生まれ変わり、人々に親しまれています。壇ノ浦の戦いに敗れた平家の落人たちが隠れ住んだと伝えられ、森林公園や遊歩道が整備されています。